

百済貨物ヤード勉強会議事録要旨

日 時：平成 15 年 10 月 4 日（土） 19：00～21：50 22：00～23：15
 場 所：育和社会福祉会館 旧館 2 階
 出席者：社会福祉協議会役員 38 名（内 13 名はまちづくりの会委員兼務）
 育和まちづくりの会委員 11 名、同コンサル 2 名、その他一般 3 名 計 54 名
 （別紙参照）
 来 賓：社会福祉協議会顧問 坂井良和議員、大阪市計画調整局 川田課長・井上課長代理
 次 第：1．挨拶
 2．百済貨物駅問題の経過並びに計画に関する説明及び質疑
 3．育和地域の今後の取組み協議

議事内容

1．挨拶

- 竹村 連合町会長挨拶：この度、百済貨物駅を大阪市、或いは JR 貨物が利用しようという問題が持ち上がり、それを地元住民に検討してもらおうという会合が先般あった。この問題についてより詳しく市から説明してもらい、参加者に検討してもらい、意見を聞かせて欲しいというのが今晚の会合。
- 米田 社協会長挨拶：本日は勉強会であるが、どういうことをするのかわからない。地元今林の者であるだけに、百済に対しては非常の強い思い入れがある。先日今林での会合でも色々意見を聞いている。
- 三原 育和まちづくりの会委員長挨拶：先般も色々市からの説明があったが、時間が不十分なこともあり、あまり理解できなかったところがあるだろうということで、今日は百済貨物ヤードについてまちづくりの会のコンサルタントである石関先生に進行役をお願いし、皆さんと一緒に勉強していきたいと思っている。
- 坂井 来賓・社協顧問挨拶：本日は社協の顧問として参加している。育和は百済貨物ヤードだけではなく、たくさんの課題を抱えている。その課題を鍵にできるだけ将来の街づくりのために生かせるような方法はないかと私自身も悪戦苦闘をしている。地元住民の意見をきき、まとめていきたいと思っている。
- 川田 来賓・大阪市計画調整局課長挨拶：先日来、地元住民に説明をしているところではあるが、今日はもう少し広く地元住民に知ってもらおうということ。
- 井上 来賓・大阪市計画調整局課長代理挨拶

2．百済貨物駅問題の経過並びに計画に関する説明及び質疑

- 石関 挨拶（略）
 今日地域にとって重要な百済貨物ヤードの問題です。育和まちづくりの会も 4 年半前に発足して以来、百済貨物駅そのものを取り上げたときもあれば、背景として取り組んだこともあり、ずっとこの問題と関わってきている。今年度いっぱいビジョンをまとめ、市長に構想を提出をするというまとめの段階に入ったところで新たな問題が出てきた。育和まちづくりの会としては非常に大きな違った条件が一つ加わったということです。今日のメインは市の説明を聞き、それに対して質問をしたり、ご意見を述べるということですが、その前にこれまでに育和まちづくりの会で勉強してきたことの若干の内容を育和まちづくりの会を代表して中村さんにパワーポイントで最初に説明してもらおう。質問があれば、一旦説明が終わってから若干の時間をとって質疑をする。引き続いてメインの大阪市の説明を川田課長と井上課長代理から行っていただく。その説明が終わってから質疑という手順で進めたい。

<説明 1：育和まちづくりの会でのこれまでの取組み（中村）> 省略

<説明 2：百済貨物駅施設整備について（川田・井上）> 省略

<質疑>

[土俵論]

- 船津 今日の説明だけを聞くと、大変いいことだというような感じを受けた。しかしこれまでに育和連合町会、社会福祉協議会、各種団体がどのような活動方針をもって育和地区の環境

の整備、その他の問題についてどれだけの努力をしてきたかということをお願いしたい。育和は今林の村落と南側の育和地区の村落が貨物駅があるために隔離されている。これをなんとか融和しなければならないと、社会福祉協議会、連合町会、各種団体、民生委員を初め、青少年指導委員会などが総力をあげ、あらゆる努力を続けて20数年になる。その結果、ようやく貨物駅の撤退も大体格好がついてきたのではないかと安心していった。ところが、8月3日に今回の移転話を内々というかたちで私たちは聞き、我々の20数年の努力が踏みつぶされてしまった。

私は誤解しているかもしれないが、指導者の方々が言っていることは、もう移転受入が決まっていると受け取った。これまで20数年間の方針に従って取り組んできた我々下っ端の努力を踏みにじるような行為をどのように考えたらいいのかということをお聞きしたい。そしてもしもこれが私たちの念願であった目標が8月3日で崩されたと言うことであれば、その崩された原因をお聞きしたい。あるいは関係者から納得できる説明がない限り、私は今回の百済貨物駅の問題に同意するのは早いと考える。

今晚の説明会は非常に有意義だと思うが、「あれは余所のことじゃないか。駅のことは駅が勝手にやることだから何も言えないじゃないか。」と言うようなことを言うのであれば、初めからこんなに大きな問題として取り上げなくてよい。私たちは先ず徹底した議論をして、結果反対になろうと賛成になろうとも決まればその方向に最善の努力をしていかなければいけない。

この問題を討議する責任者は誰なのか。連合町会長なのか、社会福祉協議会の会長なのか、まちづくりの会の会長なのか。公式に討議したのは1回だけで、しかもこの時は何の結論もだしていない。この問題の総責任者は誰であって、誰がこの問題を責任持って解決するのかということをお聞きしたい。この問題はいくら討議してもだめだ。船津さんの質問は、この話の事業主体としての責任者は誰なのか、話を持ってきた責任者は誰なのかというが一つ。もう一つは育和は誰がその話を受け止めるのかということをお聞きしたい。この質問に対して、先ず大阪市からお答え頂き、それから育和の方に答えていただく。

石関

川田

貨物移転に関して整備するのは鉄道公団である。しかし、地元の意見を広く聞き、できる限り街が良くなるような整備してもらおうよう鉄道公団に伝えるのは大阪市の責任だと思っている。

確かに国の方針が吹田の一部反対にあったわけだが、貨物を運行している会社、鉄道公団も国の事業としてやる必要があるという判断の中で、ギリギリの選択として大阪市内に施設を整備していくということでこういう案が出てきた。これは我々としても理解せざるを得ないと思っている。一方、大阪市としても、大阪はじり貧になっており、財政の非常事態宣言も出している。これは大阪市の財政問題だけではなく、雇用問題もあり、関西経済全体が非常に低迷しているというところで、何とか大阪市も一つの都市ではなくて、大阪エリア全体、関西の母都市としてなんとかしなければいけないということで、都市再生ということをお聞きしたい。大阪駅の北ヤード開発もやらなければならない、これはオール大阪の思いとしてやっていく必要がある。

鉄道公団の考え方、JR貨物の考え方について、大阪市としても大阪市内に貨物駅はない方がいいのかもしれない、地域にとっても望ましくないのかもしれないと思う。しかし大阪市としてはなんとかここで大阪を浮上させたいという思いもあり、こういう状況の中で地元で梅田の貨物が単に来るだけでは我々としても許し難いと思っているので、地元の方の幅広い、少しでもいい形で向かえられるような内容をお聞きしたい。それを鉄道公団に伝えたい。そしてできるだけ実現に向けてやってもらいたいということで、鉄道公団が発表する前に内々という形ではあるが、8月頃からお話をさせてもらっており、9月10月とこういう形で広く集まっていた意見を聞いてもらっているのではないかとということで、今日もわかりにくいところについての質問を受けたい。また、まちづくりとしてこういうことをしたらいいのではないかと話も聞いていただきたい。それを我々が鉄道公団に伝えて、なんとか実現させていくのは大阪市の責任だと思っている。

米田

育和の窓口は誰なのかということだが、やはり社協、連合が中心になってやらなければならない。また、まちづくりの会も色々とお聞きしているので、三位一体で交渉にあたりたい。

(説明を聞いてみると、どうしても移転してくる、のまざるを得ないような雰囲気になりつつあるが、できることならばもっと量を減らしてもらいたい。今でも貨物駅北側の道は渋滞している。それを考えると、どうも不安が先に走る。ここに生活する私たちは毎日の

生活を脅かされるのではないかという感じを受ける。今林でもこの問題で何度も会合を開いたが、幟をあげても断固として反対運動をするという意見もある。しかし私が反対しても仕方がないこともあるのだからと抑えているのが現状である。この際、のむべきものはのまなければいけないが、育和のためにしてもらうことをもっとぶつけようではないか。今、懸案になっている地下鉄も、最終的には平成 18 年にはやりましようと言っているが、この 30 年間地下鉄ができると聞いているけれどもだまされ続けだった。先ず、いつ地下鉄をつくってくれるのかということもはっきりとこの際約束してもらおう。それによって今里筋に地下鉄がつけば、東部市場へ継ぐこともできるし、あそこを地下道にして人も自転車も渡れるようになる。そういうことも含めていろんな条件をのんでもらう。その代わり相手の言い分もある程度はのんでいくということだと私は思う。今日の説明にはなかったが、先日の説明では、西よりのところで今林から杭全へかけて陸橋をつくるという話だった。JR としても一角は地元のための施設を建てる用地をつくらうと言っている。その建物もどんなものにするか、この際含めてぶつけていきたいと思う。色々とぐちぐちと言うのではなく、「これはのむ代わりにこれはして欲しい」ということをこの際はっきりと育和の方針として打ち出すべきだ。そういう状況下にあると私は考えている。そう腹をくくっている)???

中原 それはおかしい。今の答えを聞いていると概ね確定しているように聞こえた。しかし今船津さんが言ったように誰がこの代表なのか。代表と言うのは取りまとめたものを述べる人のことであるはずだ。決定権があるのではない。一度でも近隣住民にアンケートなり、各町会で協議したことがあるのか。まちづくり委員会とは検討する場所、勉強する場所のはずであって、そこになぜ決定権があるか。

連合町会と社協の三位一体でやろうということなら、まだこれから煮詰めなければならない案件がたくさんあるのではないか。例えば貨物電車は何時から何時まで走るのか。まだわけのわからないことがいっぱいある。説明を聞いているとまるで言葉のマジックのようで、非常に良くなるように聞こえた。しかし現実には増えていくのだ。この環境問題、公害問題をどうクリアしていくのか、どんなビジョンをもっているのか。そんな話は何もでないではないか。

米田 だからこれから詰めて話し合いをしていこうと言っているのです。

中原 ところが今の答えは「腹をくくった。条件を出そう」ということだと私は聞き取った。

米田 現状からはある程度のまなければならぬ状況になっている。

中原 そう判断する前に、代表というのなら近隣住民の声を聞くべきだ。

米田 だからある程度のむべきものはのむ、その代わりに条件を出そうと言っているのだ。

中原 条件を出すのは後回しだ。今どんな問題が出ていてどんな状態になっているのかを知らなければいけない。近隣で直接影響のある JR 貨物駅周辺、電車の通る近隣住民は何も知らない。近隣住民に知らせて、アンケート等で声を聞き、住民の意見をまとめてから、条件を煮詰めよう、腹をくくろうというのが順番ではないか。

代表となっているが、まちづくりの会が前に出ていて、連合町会はどうなっているのか。どこが窓口になっていてどうなっているのか、おかしな話を勝手に進めていると思って私は今日この場に出てきた。

米田 まだ何も話は進めていない。しかし判断としてはある程度のまざるを得ないなと思っているということだ。

中原 それは手順を踏んで進めて下さい。その判断はまだ早い。

船津 連合町会長、社会福祉協議会会長が責任をもつということであれば、その責任を持ったものが貨物駅の問題に限った今晚の討議の内容とこの問題についての意見を各町会に全部文書でまわし、各町会はそれに従って総会を開いてもらうということを提案する。各町会で総会を開き、意見がまとまればそれが賛成であろうと反対であろうと、一同総力を結集し、そこで賛否をとるなり意見を集約して初めてこの問題は進められる。そういう手順を踏んでもらわないことには納得できない。

[その他質疑] (各人から質疑回答は省略)

石関 本日の質問事項を確認する。

通行量の発生について：貨物列車の運行時間。トラック輸送は何時に何台なのか。

環境に対する問題：目標としている環境水準がどうなっていて、現在の環境水準は目標を達成できているのかどうか。機能移転することによって環境が良くなるのか、悪くなるのか。主に大気汚染。夜間通行に対しては振動や騒音。

交通に関する問題：具体的な車種 (600 台×2 というのはどの車輛なのか)。通学路との

関係。交通事故の発生箇所の現状と機能移転後の影響。

広域避難場所：機能移転後もあまり影響はないとの説明だが、そもそもの広域避難場所の定義と指定基準による指定がどのように行われたのか。担当からの説明をじっくり聞きたい。

施設整備のシステムについて（お金の流れを含む）

日経新聞報道・川田課長の議会答弁の内容との事実関係

創意工夫に富んだ、地下駐車場等を含めた技術的な提案が盛り込めないのか。

全体としてのグランドデザインを示して欲しい。それを含めて育和としては機能移転を捉えたい。

機能移転によって育和は良くなるのか、悪くなるのか。

百済貨物駅北側道路（東西線）へは貨物駅からの車輛通行をなくすといっているが、どのようにしてなくすのか。

地域住民不在で計画が進められている事について、どう考えているのか。

以上の質問については、即答しかねる問題もあるので、一旦持ち帰って改めて回答の機会を持っていただく。

（10分間休憩、大阪市退席）

3. 育和地域の今後の取組み協議

（育和としての百済問題の今後の取組み方について参加者の意見を順番に聞く）

坂井 今林の住民はどう考えているのかということと、責任ある主体は誰なのかという2点は重要だ。

社協会長、連合町会長の判断によるが、私の希望としてはできるだけ町会単位で今林住民やその他周辺住民の意見を集約していただき、それを元に議論する方がより住民の意向が反映できるのではないかと思う。

質問の中で環境への影響というのがあった。環境アセスメントは大切だ。本来なら大阪市ではなく、鉄建公団の事業ではあるが、大阪市がお金を出してでも環境アセスメントはやるよう大阪市に指示した。

今林と育和南部との分断を解消するのが、貨物駅ができたときからの約束ではないかというのが重要なことだと思う。これもきちりと伝えておかなければならない。

大阪市としてどこまでできるかという問題があるが、大阪市が持っている力を結集して鉄建公団に圧力をかけ、できるだけ地域住民の意向を反映できるようにしたいと思う。大阪がかつてのように財政豊かなときであれば貨物ヤードを全て買収することも出来たかもしれないが、今の財政状況では到底無理だ。かつて買収にかかったことがあったが、断られたという経緯もある。吹田もまちづくりのために買収すると言ったものの、財政が厳しく今は後ずさりしているのが現状だ。そう言った状況も踏まえ、今の時代として、今の時期において最善の策をもって育和住民の思いを実現させなければいけないと思っている。

米田 一番近隣である今林住民の思いということが話に出ていたが、3・40年前から反対運動をして、大阪に買い上げてくれとお願いしたこともあった。しかし実現しなかった。おそらく今回の移転を完全拒否だと言ってみても、その結論は通りにくいのではないかと感じている。仮にいくらか受け入れなければならないことになるのなら、育和地区をどのように環境整備して、どんな街にして欲しいかということもぶつけなければならないと思う。しかし負けてはいない。仮に工事が始まったとしたら、幟を立ててでも反対することもできる。皆が反対するというのなら旗揚げする覚悟はあるが、皆に最後までやり通す覚悟があるのか。皆が総力をあげて反対し続けることは非常に難しい。どのような運動をすすめて、要望をのませるか、どの範囲で受け入れるのかということを考えていかなければならない。

まずは今日の会議内容を各町会長が町会へ持ち帰り、町会毎に総会を開いてもらう。その上で意見をまとめ、もう一度集まるうではないか。

竹村 百済貨物問題は育和の南側住民と北側住民とで取組姿勢、考え方が随分違うだろう。また、現在JR貨物が進めている移転問題が国の方針であり、はたしてそれに対して一地域の我々が反対して拒否することができるものかどうかという点で一抔の不安もある。しかし、地域の不利になることに対しては徹底的に反対しなければならない。そういうことを踏まえ、大きな意味での育和の将来の発展を考えて判断してもらいたい。同時に町会毎に今日の議論を持ち帰り、町会員に伝えて頂き、皆の意見を集め町会の意見として連合町会に提出いただきたい。

船津 この問題の結論が一度や二度の会合で出せるわけがないと思うが、幹部の方々、責任者の

方々は拒否することはできない、受入は仕方がないというのが結論だと言っているように聞こえる。この結論が良いか悪いかではなく、これまで育和地域が方針として掲げ邁進してきたことが、8月3日に突然正反対に方向転換させられ、それで納得しろというのは断じて許されるべきことではない。

この問題を初めに知ったのが市会議員団なのか、国会議員団なのか、幹部なのかかわからないが、これまで地元の先頭に立って旗を振ってきた幹部がこの問題の責任を持つべきだ。なんとしても幹部に責任を持って解決してもらわなければならない。

そのためには全ての議員に来てらい、各議員からこの問題をいつ知り、どのように対応してきたのかを聞きたい。その後、各町会に文書をまわし総会を開いてもらう。そして最後に育和全住民大会を持ちたい。それまでに今晚を機に充分お互いにこの問題について議論する必要がある。

百済問題は今林だけの問題ではない。育和地域全体がこれまで方針として掲げてきた問題であり、その方針を一挙に踏みつぶしてしまうような重要な問題であると認識すべきだ。充分にこれから議論を重ね、竹村連合町会長と米田社会福祉協議会長を先頭にして全住民が後に続いていくので、責任者の方々は安心して前進して欲しい。

藤原 今でも杭全交差点の渋滞はひどく、杭全1町会は迷惑を受けている。昭和40年代は精々3~4トントラックだったが、今では20トン以上のトラックが頻繁に通っている。これによる騒音、振動はひどい。その上まだ百済貨物駅が大きくなるというのなら、引き替えに東部市場に撤退してもらわなければならないのではないかとさえ思うほど大きな問題だと感じている。東部市場には20トン以上のしかも冷凍車が入ってくる。また地方からやってくるトラックの中には排気ガスが垂れ流しのももある。この問題をさておいて、百済貨物駅が大きくなるということは住民にとっては最悪の状態になるとしか言わざるを得ない。

百済貨物駅の再開発は、東住吉区だけではなく平野区でも、あらゆる議員の方々の公約として何度も出てきている。しかし一向に百済貨物駅は良くなる。百済貨物駅がどうにもならないのなら、東部市場でもいいから何とかして欲しい。

奥野 突然の話で、よくわからないという段階。今日の大阪市の説明ではどう考えても受け入れがたい。反対理由は皆と同じ。個人個人に反対を口にするのは簡単だが、これを地域の意志とするにはどうすればいいのかというのは、これから皆で話し合っって進めていかなければならない問題だ。

中村 随分昔に梅田貨物は100%吹田へ移転するということが国と旧国鉄の方針として決まっていたにも関わらず、吹田の住民、議会あげての反対によって16年間宙に浮いていた問題がようやく半分なら受け入れられたという経過をよく理解して欲しい。育和でも充分検討して頂き、悪くなることは数えきれないほどあるが、よくなることは本当にあるのかどうかあらゆる角度から検討して欲しい。私はこれまでの経過一つを取り上げても全く同意できる道理がない。

池田 私は東部市場で生計を立てているものとして、百済貨物駅拡大の代わりに東部市場撤退という意見には反対ではあるが、それ以前に百済貨物駅が大きくなるということに対しては子供達の通学路の問題からしても反対したい。

しかしその反対が押し通せるものかどうかという点で不安に思うところがあるので、育和がよくなるのであればそれに向かって努力するのもよいと思う。

久後 総論として反対ではあるが、我々が反対してこれがなくなるのかということについて非常に疑問を感じている。行政を敵にすることにもなる。それは育和として後々においてあまり得策ではないと思う。だから反対するのなら我々が一致団結するのはもちろんのこと、生野や平野の住民も巻き込んで取り組むべきだ。しかし反対してもやってくるものであれば、東住吉区の整備水準の低さも考え、条件闘争に入るしかない。

山田 原則として反対はもちろんなのだが、反対しても完全拒否はできない問題だと思う。

今橋 育和住民不在で行われている問題であるから、住民は皆怒っている。総力をあげて反対の旗を掲げよう。

上田 この問題は新聞報道でしか知らないなので、詳しい話は初めて聞いた。

百済への移転は机上レベルではよいこともあると言えるかもしれないが、我々地域住民の理解できる範囲ではよいところは全くない。総論反対というのが非常に多いと思う。

今日ここで大阪市担当者から話を聞いただけでも資料が不足しているということも言われ

ている上に、その聞いたことすら何も資料としてもらっていないのに、口頭の話だけを町会へ持ち帰った程度で議論したところで、出る結論は見えている。地域で運動する方法を考えていかなければならない。責任者が運動方針を決めなければならない。

私ですら今日参加して初めて知ったというのが現実なのだから、地域の一般住民は知らない方がほとんどだろう。先ず初めに地域に知らせることだ。その上で、アンケートなどで意見を聞き、集約すべきだ。

岡田 責任者が主旨を明確にして、先ずはこれまでの議論経過を住民に知らせる。その上で町会毎に住民の意見を聞き、集約して上層部へ持ち上げる。そして上層部でもう一度議論するという手順を踏んで欲しい。

岡田 育和にとっては広大な面積を占めており、今林と南側の育和地区を分断している要因でもあるので、理想論としては反対する。

しかし今の状態のままであるなら、育和の発展に一番必要な場所（今里筋の両側、駅の東側延長、杭全交差点付近）の将来像を描き、その中に地下鉄も交差点改善も含めて、全てこの際検討し、この場所だけは確保しておきたい。そこに何をつくるかは今は決めてしまわなくてもよいが、今あの場所を確保するというを第一にして欲しい。

小西 ほとんどの方が反対と言っているが、JR 貨物という非常に大きな組織を相手に反対運動を起こして、どれだけの勝算があるのかは考えておかなければならない。まちづくりの会のコンサルタント石関先生は、勝算は何%位あると思われるか。また同じように反対運動を起こしたところがあるならそこがどのように戦ったのか事例を教えて欲しい。このような大きな組織に立ち向かって行くのであれば、どんな戦略で交渉にあたれば育和がよくなるのか教えて欲しい。

石関 梅田貨物移転は一番最初、国と旧国鉄の方針で吹田へ移転が決まったと中村さんの説明にあった。今日の説明は鉄建公団に代わって大阪市がやってきたという状況。それがどのように扱われていくのかということも定かではない。今日の市説明では、川田課長は禍根の残さない協議にしたいと言い、井上課長代理は鉄建公団に突きつける案を内々に聞きたいという話だった。今、大事なことは、とにかく将来に対してどの場所が必要なのかということぐらいは検討してみようではないかという意見もあったし、もう一つには環境の最低基準をどのようにクリアさせるかということもある。

賛成反対の声が上がっているが、どういう内容に対して誰が賛成し、誰が反対した結果、育和としてはどういう結論に到達したのかということが非常に大切なことだ。

今の時点で勝算の確立がどれくらいあるかということが重要なのではなく、皆さんがじっくりと考え、納得できる結論を出すことが大切だと思う。確立論としてではなく、納得できるまで詰めることが地域にとって大事なのだらうと感じる。

宮本 鉄建公団はいつ工事に入ろうとしているのかはわかっているのか。事業主体はどの程度具体的な内容を決めていて、どの程度スケジュールを決めているのか。

石関 それも含めて十分に情報を確認し、その上で議論しなければならない。

船津 以前にあった内々の説明の際は、来年3月には結論を出したいというようなことをほめめかしていたが、公式な見解ではない。

日裏 今回の問題は、先ず筋が通っていない。反対する者に個別にあって話をするというのはおかしい。社協や連合を通して、公開の場で物事を進めてもらわなくてはならない。我々は単に反対と言っているのではなく、きっちりと筋を通して皆が納得できるように進めてくれるのであれば話し合いもできる。

松田 このような取り組み方では、結論がでたとしても、役員などをやっていない一般住民は、説明会や討議の場でどのような議論がされて結論に至ったのかを全く知ることができない。議論の内容をきっちりと公開すべきだ。それをする中で、役員では気付かなかったような疑問も出てくる。情報をきっちりと公開していくというやり方でもって、交渉を進めて欲しい。

桑原 私は一番近隣の今林住民として、百済駅の土地に対して強い怨念がある。だからなくなったらいいとは思っている。ところが実際は今までに色々な経緯があってここまで来たのでしょう。昔は百済貨物ヤードを通して25号線につながる道がいくつもあったのが、結局一方通行の道1本のみになってしまった。父親達の代の人が泣き泣きであったにしろ受け入れたのは事実として変えられない。

今日の参加者の多くは反対だと言っているが、いつまで反対できるのかはわからない。石関先生もはっきりと勝算の確立を答えられない。それは当然だが、実際問題本当に最後まで

で反対しきれぬのかを考えるべきだ。

反対はしたいが、いつまでも反対しきれないのではないかという意見もあった。それならば、育和への土産をどれだけとるかということが、我々がこれからすべきことではないか。それしかできないと思う。

育和全住民が反対の旗を掲げて頑張っても、完全拒否はできないだろう。なぜなら、吹田は別の用途の土地があったのであって、貨物駅としては全く新たに整備することになるから反対もできる。そこは百済では条件が違う。

米田 怨念があるという件について補足する。昭和 17 年の秋、日本軍の腕章をした参謀が今の百済貨物ヤードへやってきた。それまでも何度かあの土地を売れと言う話が国鉄からあったが、今林住民は全て拒否していた。ところが、当時は軍国主義の世の中であったために、国鉄と言えども国であるので雲行きが怪しくなってきたところに軍がやってきた。そうなるからの動きは非常に早く、見る間に強制買収に入られてしまった。そういった怨念があるから国鉄が民営化される前の年に駅もつくりたいし、山へあげてやろうということで、坂井三郎先生に色々話をし国会議員の問題であるということで、坂井先生と一緒に左藤さんに会った。その故事来歴を書き記してくれということをして左藤先生から言われたので、日がないので急いで一晩で書き上げた。当時は既に塩川さんは国会議員ではあったが、遠いところの議員では詳細が理解してもらえないから地元の議員である左藤先生に仕方なく頼んだ。左藤先生にお願いして取り組んでもらったけれども、どこまでの政治力を発揮してもらえたのかはわからないが、結果としては政治力がなかったということだろう。貨物駅をもっと東へ持っていくことも、久宝寺に土地があったのだから可能であったはずだが、できなかった。一方、塩川さんは地元の有力者でもあり、あのあたりの大地主である。昭和 63 年には国の買収地にはいつてしまった。その時に国鉄を中心にして、左藤先生と塩川さん辺りが綱引きをして負けたというのならまだ納得できるのだが、綱引きすらできなかった。後日、左藤先生に詰め寄ったこともあった。その後、現在の今林の里から東側は JR 貨物が手放し、大阪市にでも買い取ってもらおうということで精算事業団に所有権が移ったから、買い戻しませんかという話をされたこともあった。このように当時の議員の力関係でやはり余所へは持っていけなかった。要するに喧嘩をすることもなく、負けているのだ。その後も何度も大阪市の買収してもらえよう、坂井先生にもお願いしてもらったけれども、結局 JR 貨物は売らなかった。そうやって色々頑張ってきたつもりではあったが、左藤先生にお願いしたのが失敗だったのか、実現には至らなかった。

今橋 確かに土地を取り上げられた怨念があるのもわかるが、戦時中は言論の自由がなかった。しかし今は行政が相手でも発言することはできる時代だ。ダムをつくることも反対でやめさせられたということに比べれば、百済を拡大させないということは簡単なことだ。ものごとは建設的に取り組むべきではあるが、この問題に関してはまずは地域は絶対的に反対しなければならない。それが順序だ。そこから話が始まる。

船津 私も百済駅の土地に関する経緯については文書でも持っているし、よく知っている。しかし残念ながらそれをもってしても、今回のこの移転受入問題に関して、反対しても仕方がないのだから早く条件闘争に入ってお土産をたくさんもらって受け入れようというのは納得できない。賛成反対の結論を出すまでに、十分に討論し結論を導き出さなければならない。そのための第一歩として、市会議員を呼ぶのも方法だろうし、旗を掲げて進むのも方法としてあるだろう。その方法をどうするかを議論しなければならない。最高責任者が米田会長だということなら、その方針を決定し行動の方向を示してもらわなければならない。

坂井 今後の進め方について、何らかの形で住民に広く知ってもらおう努力は必要だ。そこで今日の質問事項について、コンサルタントの石関先生と大阪市の川田課長に議論してもらい、今日の一つの成果として住民に見てもらえるような形に石関先生につくってもらえないだろうか。それをもとにして、広く知ってもらおうことが必要だろう。その後で、町会単位でアンケートや議論に入るかどうかをもう一度議論してもらいたい。今日は市会議員としてではなく社協の顧問として出席しているので、質疑応答には加わっていないのだが、やはり誤解があるところもある。それはきっちりとしておかなければならない。その手順を間違わないようお願いしたいと思う。

中村 誤解とはどういうことか。

坂井 それも明らかになってくるだろう。

船津 大阪市のまちづくりレポートにも市政便りにも、他のことは掲載されているが、この問題については一切記されていない。無視されているとしか考えられない。

- 坂井 誤解があると言ったのはその点で、貨物移転に関しては大阪市に対して鉄道公団が通告してくるだけである。大阪市の意見を聞くというのではなく、通告なのだ。それを受けて、これまで翻弄していたというのが現状であって、その取組方を改めるために大阪市が一旦地元へ出てきて、地元の意見を聞いて、その上で鉄建公団に押し戻すということをやろうと今している。その辺に関して少し誤解があってはいけないと言ったのだ。大阪市が事業をするのではなく、鉄道公団がするのだというところで行き違いがあったのではないかと感じた。
- この際、大阪市を引っ張り込んで、今、育和が抱えている課題を全て解決してやろうというのが、私の下心であったが、その前の段階で脱線しているので、その辺をコンサルタントにお願いしたい。
- 石関 今日議論を聞いて、幾つかの問題でまだ定まっていないところが多いと感じる。一つは、誰がどういう立場で地元にごういう説明をしているのか。内々にという話に対してどういう返答を期待されているのかというところまでの話がまだ確認できていない。だから皆さんは返事がしにくいのではないかと。そのことについては詰めることができるだろうと思う。今日、質問がたくさんだが、それに対する答えはまだもらっていない。その答えを頂いて、それを一つ簡単なメモにして、各町会の意見を聞くというのが次のステップだろうと思う。そのレポートをつくるのも民間のコンサルタントである私が大阪市と連携してつくるというのも厳しい。できれば、それを皆さんがまちづくりの会に委ねていただくと、私もまちづくりの会のコンサルタントの立場としてお手伝いできる。そういう形にでもしていただき、まちづくりの会が社協、連合に対してレポートを提出し、協議してレポートを各町会に持ち回る。その段階でアンケートをとる、或いは討論会をするなど、色々な方法があると思う。そういうことも次のステップとして早急に提案するというをやれば、次のステップに移りやすいのではないだろうか。そうすると大阪市の態勢の問題、技術的な問題に対する答えもはっきり出てくるだろう。
- 今日の議論になかった重要なことは、今出されている施設整備の提案内容というのが土地に対して筒いっぱいをつかうというものになっているが、一方で地元の皆さんはあの土地が育和にとってかけがえのない場所だから何とかしたいと考えている。どういう余地がありうるのかも見えていない。それも含めて、お土産論としてではなく、どういう余裕がある状況なのかも技術論の一つとして次のステップでは入ってくるだろう。
- 育和側の答えは、育和として、誰が意思決定するのか、この会なのか、或いはさらに町内会に持ち帰ったものを持ち上げるのか、アンケート等をとるなどの場面が出てくるのか、小学校に集まるのか。というようなことも充分議論して決めなければならないことだろう。
- 坂井 違う。それならば一旦、役所に今日の議事録をつくらせ、その内容を会長に確認してもらおう。そして広く地元住民に知ってもらうと言うことが第一だと考えるのでそれをやっていく。手順だけを議論していてもどうしようもない。
- 中村 役所から情報を出させ、それを広く住民に公表するというのは、これまで川田課長がとってきた内々に話をしたいという方針とは違う。だからこそ今日の勉強会にも市会議員を呼ぶという声はあったが、それも実行できなかったのだ。よって坂井先生が言われていることは、これまでの市の方針と矛盾するのではないかと。
- 坂井 今日だけのことではなく、今後の問題だ。やはり今後のことは広く知ってもらわないと進められない。特に今林の住民には今日あった詳しい説明をまとめて知らせるべきだ。今日の議論を参加者それぞれが持ち帰り、口頭で住民に知らせた場合、内容が違って来る恐れがある。一定の共通認識は必要だ。共通認識の土台をつくっていききたい。
- 中村 貨物ヤード問題は今林町会だけの問題ではない。他でも影響を受けるのだから育和地域全ての町会に関わる問題だ。全てが同じ次元だという共通認識を先ず持ってもらわないとならない。
- 中原 役員をしていない近隣住民は、この問題について何も知らない人も多いだろうから、先ずは今わかっていることだけでよいかそれについてどう思うかという簡単な内容でよいかから公表すべきだ。文書はまちづくりの会とコンサルタントの石関先生にお願いしてつくってもらえばよい。この場合は勉強会なのだから、この場の意見がどうであるかは関係ない。公表した上でなら、各町会で会合を開くのもいいだろうし、アンケートの形もいいだろう。
- 中村 これまでは連合や社協の役員でしかこの問題に関する会合を開いていない。次のステップとしては、各町会から5人、10人と数を決めて集まり、今日と同じように市の説明を直接聞いてもらい、それを町会へ持ち帰って検討してもらおうほうがよいのではないかと。その

次に全住民にわかりやすい説明をきっちりとするのがよいのではないかと思う。

早く情報を公開すべきだと言う点では一致しているが、それをどこが主体となって行うかということをおの場で決めなければならない。

三原 社協、連合、まちづくりの会が三位一体となって取り組むということをお米田会長も言ったのだから、その線を進めたい。進め方は色々あるがどの方法をとるにしろ、三者で検討協議し、町会長会議や社協会議などで承認を得て進める。具体的には三者の代表数名が集まって協議するということがか。

米田 それよりも今日の議論を町会長が各町会へ持ち帰り、町会毎に検討してもらうのが第一だと考える。

三原 町会長一人が聞いて、それを町会員に説明し、町会で検討するのは難しい。

中原 今日の勉強会でさえ全ての町会の会長が出席しているわけではない。先ずは全ての町会長に知ってもらう必要がある。

船津 水害の問題も棚上げ、だんじりの反省会も棚上げ、他の問題でも反省会もなにもない。一つ一つ段取りをつけて決めなければならない。結局、幹部が困ることになる。

竹村 水害の件については、8月に一度市からの説明があった。育和連合としては7~9月は非常に行事が多いため10月に入ってから二度目の説明会をして欲しいと市へ申し出ている。10月16日頃を考えているので、改めて連合に通知すると市からの返答をもらっている。市からの通知をもらった時点で、皆さんに通知する。

日裏 まちづくりの会は今日の勉強会の件で数日前にも集まって検討している。他の団体上層部にももう少し力を入れてもらって、スムーズに進むようにしてもらいたい。説明資料を市からもらうにしても、育和は育和として一致団結してことを進めるべきだ。一致団結の方針を決めなければ進まない。

中村 私としては今日は、どういう方々に次回の会合に集まってもらうかを決めるべきだと思って参加したが、なかなか結論にたどり着かないまま時間だけが過ぎてしまっている。社協・連合・まちづくりの会の三者の正副又は正のみに次の会合をいつどのように開催するかの方針決定のみを委ねるといって今日の勉強会を閉じてはどうか。(拍手で同意)

以上